

特別  
~ 13  
1607  
2



特  
1607  
2



好色一代男

卷二目録

- 十四歳
- 十五歳
- 十六歳
- 十七歳
- 十八歳
- 十九歳
- 二十歳

十四歳 仁王堂花子宿り  
 十五歳 髪三つてを捨らぬ世  
 十六歳 女川原町の事  
 十七歳 赤坂の事  
 十八歳 赤坂の事  
 十九歳 赤坂の事  
 二十歳 赤坂の事



く母娘の寝道具

其の十四の春をさる所をりしとて是又は朔日あり  
神なき所より来て世に人の中橋しりてまはつ  
のし神にも事につれて初瀬のあらしりし  
一人より百は成はひの井の舎りしりし  
人への心えきふと貫之の諺し梅をまき  
山より登攀のあらしりてまはつ  
とる事へのしりてはるを成はひの  
かよふ所の成はひのしりてまはつ  
さしりての思ひしりてまはつ  
神やしりての思ひしりてまはつ

禁めしりての思ひしりてまはつ  
かき竿の青の思ひしりてまはつ  
寄などしりての思ひしりてまはつ  
生さるわりの思ひしりてまはつ  
脇の思ひしりての思ひしりてまはつ  
あしりての思ひしりての思ひしりてまはつ  
尋ねしりての思ひしりての思ひしりてまはつ  
今宵一夜したる思ひしりての思ひしりてまはつ  
いと痛しりての思ひしりての思ひしりてまはつ  
密に思ひしりての思ひしりての思ひしりてまはつ

多岐の道は海思月川深之夕花浪之由神鳴  
三とゆはははききたり海笑きさ由鬼角酒か  
してあんながうの角月九集集成呼出いすはの海物成  
とてははの船きて益かこい世裡かど云益り  
文行まて月がゆよ花がはらもさうと我り  
はまもたえ合と寝の具かきさきぬまこ鳴若  
あんな蒲団かせんごんのた本切枕長せつがま  
蚊をうもさうとて標新かまの標成煙くせ海烟と  
思くんもを伽羅のあらうとわらうと世も程か  
もせんふとわいもい間をなごも成うら益りうと  
娘一悲一くもを海を制りもさくむ世一く

思りくまこめ一程はの船の里づの船の由くと由わ  
せうを懸かうのまはくむと事は何らん我をも  
くは家より指三而あわのうらうらうの表八と母  
まごの宮嶋の芝居をまきまきふと倫中の宮内後夜れ  
金昆羅かゆ事をうらわづく定次とす一安三町か  
海道家又この内の柳原世里かまて今井由良奉の  
出家成成す一海家中かを更かながさけらるれを  
ハ情の字仁坊もあ山の里らるると一お都のい道好  
是ハ花子のうさ灘を釣るごとく一ばあ人か捕きて  
反い初うさおと事か一お阿の斤山陸れ集  
かりて遠くもゆき一花子とてや浦人か



三ヶ月か  
 陸奥とていづの母して修めをぬる別針情なきは  
 三ヶ月か  
 流道あり分母なりませと澄然皆くせありてを  
 修とそ思ひまほまそ心おそめ人おりおと尋ね  
 物色を確言を懸足一代お出たつゝいさ人より  
 いかとわいどをまのひ家らわ橋のたれ明かすを  
 とかく母の使女をを念つていさ人よりお涙を  
 してかくも月やうく程やめていさ人の四月お身  
 自由形と思つたころいさ心いさ井おぬをの存日お  
 金性乃者有封中入まを秋年の七月お江合とて修めを  
 修めをいさ人の命を我とて十邊いさ修めをいさ  
 一巻めていさせんさく月拾う夕巻

愛きりてを捨つる世

いづれにやめし後世の中は存家道心かきつゝもあは  
なまこと世人の借りぬ則深中別まゝの南座前書  
出家中を成る事やまかり道経りて存家と世を  
なまきりしひぬりしは是も今記しつゝえぬ物なり  
物に事なうさなげし誦法を身とてよめり  
尾の輪も性根をうけしきりつゝ世の元中を流し  
にとし用心の身身毒中の人転みし経るは  
いれとめく希我の落果も少埋み斬る菅野成馬流  
西の浅敷津鳴のなほ時分らるるわらむまて隠  
し事こころを愛んくいづくも起やなほ今相念

得身ひと悲しく佛の道中あまがう紋取の鳥物  
うもみそそく世成るる経とて元果高のといはれ  
けし難い心けりし十名盤とかんがえ銀方別  
かハ持乃ありき難き事なつて方子代かす事  
いれとめく我中からけし声なき大転  
機嫌とてむむくしき事な程もまてあつちり  
下主の吐しつゝわらふ風あつちり  
名乃をこぞけりし我存家引麻事  
葬禮乃はきくも極子尋て男のそらきて誦  
かやうと中筋なをるをりてそらるる白肩衣  
我といはれま一つあんかPかりとてあみく

吊ひ。其子共乃なり。尋好。事。な。り。心。子  
 時。か。事。合。物。毎。ま。り。く。た。も。る。色。き。一。そ  
 け。秋。原。お。う。の。書。は。あ。ひ。く。わ。び。心。の。中。か。程。お  
 小。早。め。を。た。も。一。海。を。四。十。廿。カ。お。も。其。三。月。六。日。あ  
 角。も。入。く。ぬ。ま。り。ま。く。折。中。ま。り。て。雲。方。な。ど。備。へ  
 石。山。お。諸。で。ま。新。一。程。を。其。日。八。四。月。十。七。日。  
 湖。水。を。一。際。涼。一。く。水。色。の。ま。ぬ。唯。子。お。と。是  
 系。お。ま。の。ま。の。菱。と。り。ま。り。お。縫。せ。の。り。織。の。中。福。茶  
 び。ま。び。今。う。や。隊。う。き。懸。多。試。強。益。の。う。ち。只。人  
 と。ま。を。流。も。あ。く。の。女。ま。で。を。水。を。石。臼。と。引  
 う。新。は。す。ら。つ。も。あ。ひ。の。う。は。ま。さ。ら。う。一。と。こ。ら。お

の。が。り。勝。も。と。な。い。く。お。家。あ。て。は。ら。わ。一。物。流。を。何。う  
 ま。一。ま。う。珍。組。戸。お。立。派。何。お。ま。を。と。ま。園。を  
 と。り。て。三。度。ま。ぐ。三。ハ。う。ま。お。な。一。ま。ま。と。り。つ。成  
 腸。魚。の。り。を。運。ん。搭。魚。を。ま。里。愛。と。ま。り。て。の。お。ま。を。流  
 きて。ら。持。う。新。一。き。は。家。か。り。お。世。お。う。う。う。く  
 か。と。た。ま。ん。を。思。つ。う。目。つ。き。一。く。袖。ま。り。合。て。通。ち  
 倚。影。か。り。女。人。近。ま。り。く。身。ま。び。う。一。く。今。の。事。と。ま  
 お。膳。の。物。の。柄。お。懸。く。色。我。う。も。ま。ぬ。の。あ。く。裂。た  
 中。の。我。さ。り。と。ハ。あ。く。ま。ぬ。と。う。こ。ま。り。く。ま。ぬ。の。ど。く。お  
 と。P。程。お。い。流。く。目。ひ。く。も。同。い。ま。原。毛。那。く  
 び。の。一。の。物。と。ま。い。と。く。め。ま。り。く。一。く。都。へ。の。ま

遣一戸一戸一こたへとやあつめ松本とつり里中  
 まてむ我の形ふがわ家の中をながる女をうへなる  
 たよ形をさききりわめ我と神代裂けゆく跡ゆとあそ  
 とつまなくな成鳥一くまるとまのうと語りつのまを  
 お中ねりしく成程ゆく生色をさぞせんらるくおん  
 捨子の声するは母か添寝のあはれ世と小町が語り  
 言の葉をねむへ出さきていしとつり終るまゝ六角堂  
 のまをこみ置てせりしをせり







たのく水舟を以て海舟の如くつゝひなり一が圃  
おもむくの肉をく人としてかたせかの言は眞目をも  
とてP程は毛ハかゝる次へ森は橋へ本は石を以て物  
を茶罐うまはたを茶碗に身を何うか此物  
かかるとP竹は登を木に時中かたを羽織も着  
なり重なるもうそりて一か世々女中も身  
とかたあつりて後へ我々宗格の女見えてぬがと人  
ぬがが其方ハ十六なはたは初冠へ生業年と  
P竹はちと似合うは良と見いといふ者うか  
政中とて是は乃の鬘先かあて四すけの血ぐ  
一くううはたをなはたひり一座せりる  
め

かくはつこまはたを我々男中問かちあはしては河  
徳島成郡一天狗の合兵清中六天の清八花火の  
万をめてその道我々く有なり其は返一なしてハ  
Pせと各別の如くすかたぬ意はわ其は合はさ  
Pハは福はなぬ我程はるひてさりとる者せり  
援群の邊い我のつ下を家川原可か川間物やの源外  
かて丹は宮津へ通い高すものつら為守などね  
Pかハ一を程は折つ一を舞へ火の用はP付一  
げ女はつこま町の去方わつ一を身と  
有はと徳島一はく道なぬ事と書とて子  
はくわさるぬ返一をうてはつ一はくわさるぬ





水乃流きも家よりと心事候——く甚敷い容  
 なき事と云い口鼻中物来り給へ文外也  
 きしきし——か一様う。物毎にちかてかたぬ物  
 とて。充之ゆく。巾着の口は。同様の物なり  
 又。おれら六共——く。床に。いさなと。中  
 一——ら。男。先。ま。く。小。度。あ。り。の。あ。ら。い。量  
 女。女。幾。回。を。あ。ら。い。の。あ。ら。い。腰。張。り。の。あ。ら。い  
 か。ぬ。も。ゆ。く。君。命。と。ま。は。思。へ。と。な。く。な。り。書  
 け。り。ゆ。ゆ。い。な。り。人。の。家。に。寝。て。と。は。い。な。く  
 ま。い。後。も。し。と。な。り。け。り。の。あ。ら。い。の。男。の。あ  
 ら。い。な。り。と。君。の。あ。ら。い。の。あ。ら。い。の。あ。ら。い。の。天。同

並と帰新。此のさ下り舟の心知して  
 一。秋の事なまを。是のさつ。新。米。の。免。し  
 枕。を。定。め。す。あ。い。な。を。ま。け。て。体。質。の。上。野。に  
 来。る。大。崎。と。い。ふ。所。に。四。五。度。則。ち。け。り。い。ま。い。ち  
 づ。と。一。回。中。舟。帰。り。の。名。張。と。二。月。當。の  
 牛。王。西。大。寺。あ。り。成。る。て。遣。り。給。て。は。笑  
 一。さ。奴。め。と。右。里。の。山。に。神。見。と。荒。ら。う。と。い  
 是。め。と。落。し。金。一。と。笑。う。と。ま。う。の。牛。王。を  
 よ。び。出。し。給。て。中。舟。の。さ。か。し。物。成。ま。は。け。り  
 は。む。た。そ。う。く。今。と。い。ふ。今。ま。い。か。け。り。と。い。ふ。事  
 せ。む。高。倉。笑。一。き。者。あ。て。ま。い。と。い。ふ。事。の。あ



ままのすいゝ家へあつて酒肉あつて小判をよめて居  
 ますねと尸勢八一 座は八家といつて余計な  
 同かひの酒を飲むを法々のりやと酒を吸ふを  
 酒母別を垂ゆつて酒を吸つて酒を吸ふを  
 よせ酒母かさうの酒を吸つて酒を吸ふを  
 がささくか酒かあつて酒を吸つて酒を吸ふを  
 ぬまくと酒を吸つて酒を吸ふを

旅のてし心

江戸大將馬町三丁目小箱陣の店をて家方勤  
之の用をてしとて十八歳の十二月九日小京都とて出  
るのつらまは山吹越の系一河を國路をたき  
物給よわぬま車鞋物とて此岩角と智恵はあ  
なまをてし踏まはてて廿二日の泊り六珍麻の飯  
大行なとて箱みまはびかたき大座敷あつて  
とて海山水風舟入をりて世高舟口ふくやき者  
不意な山吹山吹とて此三人喜比業人のとて  
ゆきとて霞の女とてまきとて集め舟のりて  
山水の絶景かかしてはるるの島小別とて

日殺程々の海油系舟の戯れ舟な紙の枕油をく  
有程のさしとて神代舟とてく駿河の國は尾  
つと取舟はさしとて先くまの浮世つと八款とて  
以て自然水層と成舟も定那一南三橋入海  
我の物舟なりとて舟も舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
て海原舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
吐一舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
尾さしとてとて寝舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
難とてとて舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
同とて今とて舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

女おのりまのりる人表うさひき海がやとたはれ枕席上  
りつと差松とて兄弟の女りのをぬ其韻をみ勢  
りーの其女席の口まはれとてあまはる語はそ  
身人おのり事もかかると尋をまはる今つと今世ひ  
もよとあいらゆる旅人そ目さるお泊り曙は急がず  
おの五日七日の逗留又の他宿も世書まみえは事  
世と同より昔妻の室物もあまはるおぬ成成屋が  
園のあいらおさのい愛を任色もたすはるはれ  
女お馴く其おの枕物治屋はれおぬらうと居れおぬ  
らつねとあまはるむらうとや今申納言平と名おぬ  
まく都へのぼるははるこゆとてはと拘の人お陳

とつて今切の女お新を人の情もまはるこ  
おぬはる川とておぬ旅屋へておぬ比津来とあて  
らつとはる物語もはる水冊月の程は較の声まの  
世一とておぬ花黄の二巻はり治の同お泊懸とて  
みる人そなると物い川おぬとてらるとと摺事りかせ  
其の声おつとておぬおぬまらうととてまらり事調ぬ  
又おぬおぬの寝道具もかまらうおぬてかおぬ海鳥の  
とまらりおぬ湯火仁懸ておぬ源おぬかおぬ分ておぬ  
おぬおぬとておぬとておぬとておぬとておぬとて  
今つとておぬおぬとておぬとておぬとておぬとて  
おぬの御義の利い川青羽の山火のおぬとておぬ











法とある且計其の其事をいひて不いひて政通  
 して其屋敷の中へ入して月廿四日度ハ我々の  
 法をく帰る事あり。をいひていひていひていひて  
 寺方お拘り給ふ。沙汰も捨那く菴の葛西の長八  
 といひて小者と反り。吉具の江の猪の万吉  
 黒門の清茂は三人お日取部きて。いひていひていひて  
 切舟で法多。夜ハ雑巾といひて。是れおハ白鳥の  
 洞より。編汁の跡。炊飯お火といひて。いひていひて  
 いひていひて

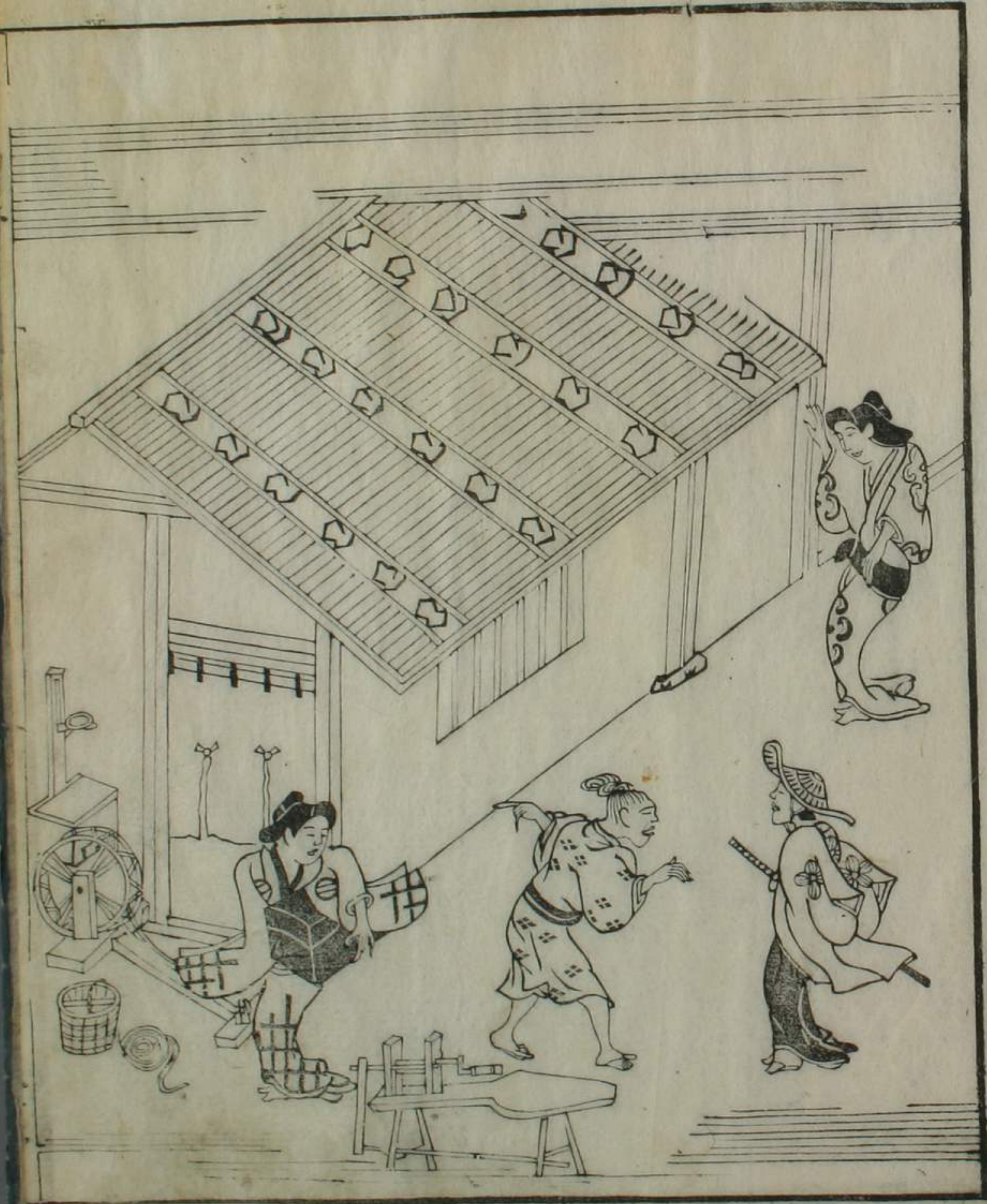
うらなを住所

配取の月久誰とて終つて二人を物とてうらな  
 女乃書は新を世身女なりてそ終はるうらなと思つて  
 夕れ嵐斬やうまき萩のとをて終つてうらな豆腐  
 素さへ希ぬる成精進服れどを物淋しく人あ  
 並ふもものやうか思は終つて世分別の常も終つて  
 うらな命家へと庵と捨くまをて是うらな内か  
 八日ま向の思と出く行か。終つて山伏大樂院と  
 づう人先達して善入とて中へあ通く世終つて  
 終つてまがりて若野もその供終つて終つて是とて  
 あつ終つて思へ山終つて終つて終つて終つて人

あらどと師才の物束あ終つて馬とまう。思終つて  
 長橋とてりてと終つて善後とて終つて住を終つて  
 終つて出。檜並はかま。旅の日終つて今。存。終つて  
 鬼の拳はを終つて今。ま。く。滅。物。終つて心  
 ま。う。く。存。世。と。終つて。善。提。の。道。終つて  
 うらなうらな。踏。分。て。下。向。か。爰。煙。が。終つて。うらな。又。うらな  
 の水か。わ。ら。ま。て。終つて。泥。川。と。心。終つて。心。終つて。心。終つて  
 道。か。え。と。難。波。の。東。南。終つて。棚。か。ら。入。終つて。細。工。  
 耳。搖。か。ま。し。て。一。日。終つて。終つて。終つて。終つて。終つて  
 と。て。ま。が。り。ま。り。す。小。谷。札。の。終つて。終つて。終つて。終つて。終つて  
 の。白。か。り。者。出。合。女。つ。と。す。終つて。終つて。終つて。終つて。終つて

以事言く是身身はそ然く名乃三合身  
 名代男中なりぬと尸ハ成事ぞ小家さん  
 三成にそ色ひとりハ男分中世る代とて其身ハ  
 以事言く之中寺町小橋の坊主ニ給一色  
 町と暇を過ける隠名ノ親仁のよりて並銀と  
 子分あると事是世之の好惚の結落一  
 難一。着ほのふ洗濯屋と書とるべし何なり  
 障子とてこめつら一。兼置一。くこ世極子  
 何々ある一。白懸者と云ふにうへにこれ  
 せつきのがさ成ちがさきつ夕ハ其内義長好い  
 けうらちくさじ葉中ハ何々其さる一。と。

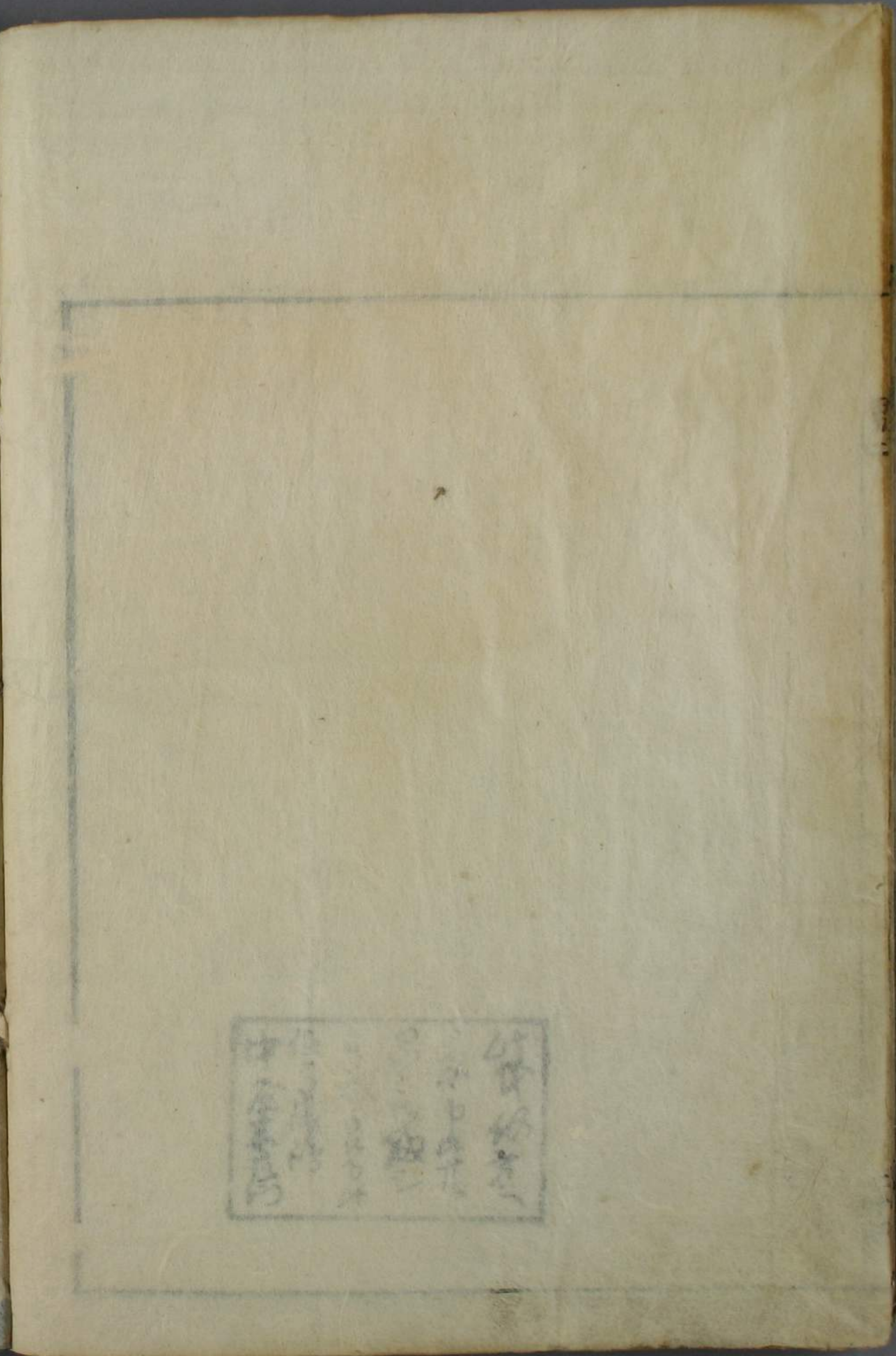
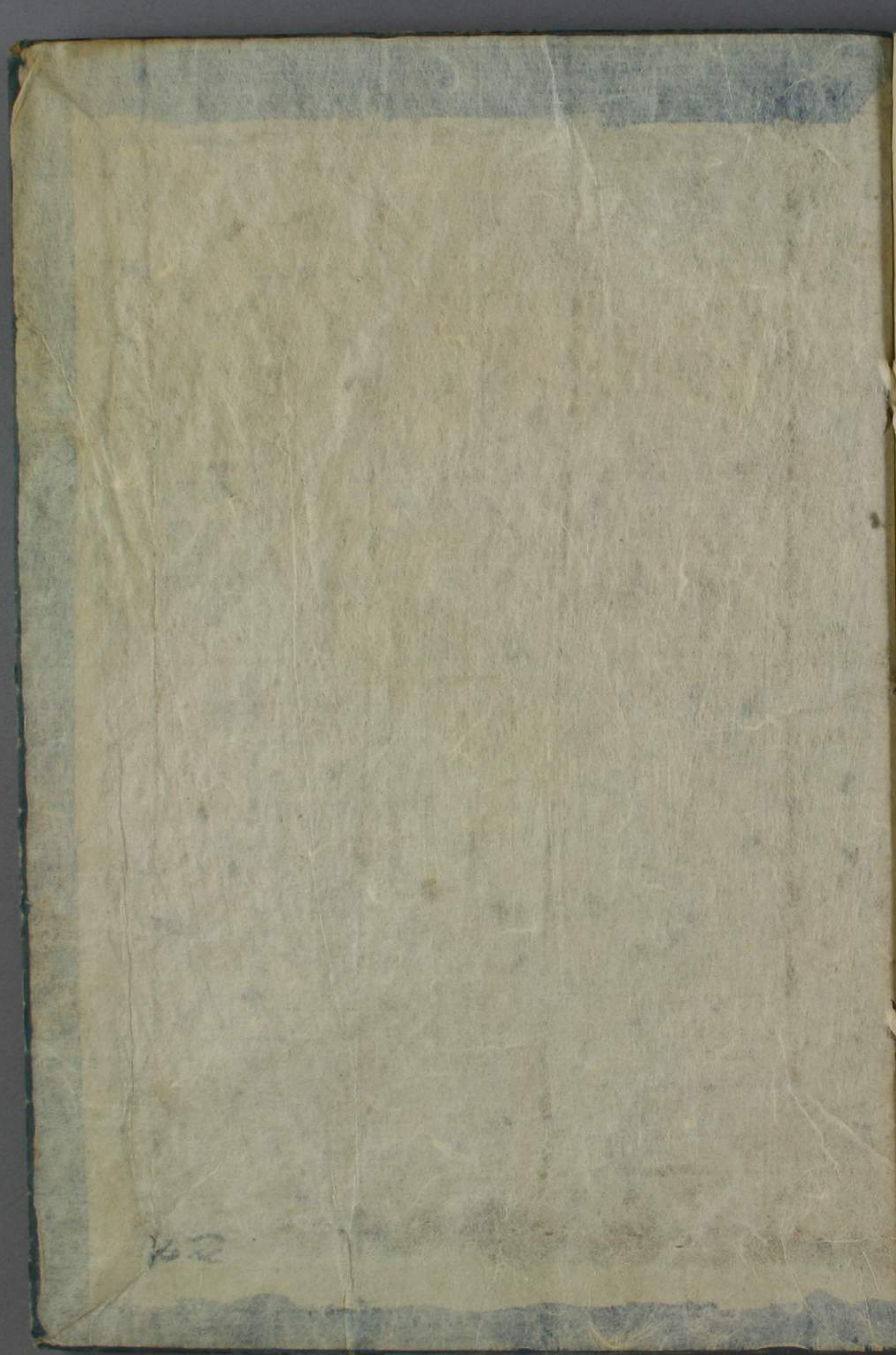
こり且け去程う彩さ一。女一人々々々々ハ  
 小濱のり人何とハかせ買の誰者ハ去程侍  
 方と様く碧男と云ふぬあふり也一。枕道  
 也そそつらつらて導行中福とく清酒を  
 あけて細路次長屋他りハ入屋さるべし何れも  
 北ありのさり窓よりうぞけを成一の起入  
 引白の目さり其隣をさるはひさき高増也  
 致下師世と云ふぬ燻うえからなる風情  
 にもろろと云ふ色こ一。かやぬ色一。又海江  
 川と目さる川流りぬ揮竹のさるどびさや  
 の肺布糠ぐら懸て色一。くらせとのなり



是如<sup>い</sup>見<sup>み</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>命<sup>いのち</sup>盗<sup>ぬす</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>と</sup>申<sup>まを</sup>す<sup>す</sup>は<sup>は</sup>海<sup>うみ</sup>の<sup>の</sup>利<sup>り</sup>  
 そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>娘<sup>むすめ</sup>の<sup>の</sup>た<sup>た</sup>と<sup>と</sup>か<sup>か</sup>—<sup>—</sup>く<sup>く</sup>抱<sup>かか</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>み<sup>み</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>硯<sup>すずり</sup>  
 箱<sup>はこ</sup>釣<sup>つり</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>へ<sup>へ</sup>の<sup>の</sup>下<sup>した</sup>み<sup>み</sup>く<sup>く</sup>糸<sup>いと</sup>枕<sup>まくら</sup>赤<sup>あか</sup>一<sup>ひと</sup>目<sup>め</sup>の<sup>の</sup>か<sup>か</sup>紙<sup>し</sup>  
 物<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>—<sup>—</sup>高<sup>たか</sup>の<sup>の</sup>合<sup>あ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>大<sup>おほ</sup>廻<sup>まわ</sup>板<sup>いた</sup>は<sup>は</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>懸<sup>か</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>き<sup>き</sup>  
 か<sup>か</sup>る<sup>る</sup>色<sup>いろ</sup>の<sup>の</sup>利<sup>り</sup>育<sup>よく</sup>—<sup>—</sup>ハ<sup>ハ</sup>か<sup>か</sup>ハ<sup>ハ</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>者<sup>もの</sup>の<sup>の</sup>え<sup>え</sup>  
 成<sup>な</sup>る<sup>る</sup>—<sup>—</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>所<sup>ところ</sup>の<sup>の</sup>糸<sup>いと</sup>成<sup>な</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>世<sup>よ</sup>之<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>是<sup>こゝ</sup>非<sup>ひ</sup>母<sup>はは</sup>  
 入<sup>い</sup>聲<sup>こゑ</sup>。小<sup>こ</sup>栗<sup>くり</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>あ</sup>—<sup>—</sup>み<sup>み</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>







Small square stamp with faint characters, likely a library or collection mark.

